

それって本当に

あなたの「無意識の思い込み」
見つめ直してみませんか？

私たちは無意識のうちに、相手や物事に偏ったイメージを持ったり、決めつけたりすることがあります。
これを アンコンシャス・バイアスといいます。

「あたりまえ」？

チェックしてみよう!!

- ☐ 1, 相手や自分に対して「この世代の人たちは、〇〇だから」と思うことがある。
- ☐ 2, 家事、育児は女性がやったほうがうまくいくと思う。
- ☐ 3, 血液型で相手の性格を想像することがある。
- ☐ 4, うまいかなかった理由は、自分以外にある。
- ☐ 5, 「年の離れた夫婦」と聞くと、年上は、男性だと想像する。
- ☐ 6, 周りと同じ考え方や行動が、ほぼ正解だ。
- ☐ 7, 難関大学出身者は、仕事ができると思う。
- ☐ 8, 天災が起きても自分(ここ)は大丈夫だと思う。
- ☐ 9, 障がいのある人に任せられる仕事は限られる。



様々な無意識バイアス

()の番号は当てはまるチェック項目の番号です

正常性(8)

「自分は大丈夫」と思い込む。
感染症の流行ニュースを見ても自分は大丈夫だろうと油断する



確証バイアス(4)

自分が思い込んだ情報ばかり収集してしまう。
一度いいことがあると今日はついていると、いい事だけをピックアップする。



ステレオタイプ(1, 2, 3, 5)

人の属性や特性をもとに先入観や固定観念で決めつける。
外国人と思われる人に「日本語上手ですね」と声をかける



ハロー効果(7)

相手の一部の長所ですべてがよく見える。
「真面目そう」「優秀そう」と勝手に期待し、小さなミスをしただけで「期待外れだ」と理不尽に責める。



集団同調性(6)

周りと同じように考え行動する。
「断ると雰囲気を壊すかも」と空気を優先し、場のノリで行われているいじりや排除に同調して相手を傷つける。



慈悲バイアス(9)

特定な対象者に過度な配慮をしてしまう。
ミスが多い部下に「最初はみんなそんなもんだから!」と甘い評価だけを与える。



！自分で気づいて考えてみよう！

私たちは誰もが必ず、無意識バイアスを持っています。ですがそれ自体が問題ではありません。『**考えはあっても行動に出さない**』ことが重要です。「バイアスは誰にでもある」という前提のもと、自分も例外ではないことを意識しましょう。



豊後高田市じんけんセミナーについて

私たちの身近にある人権問題を考えるセミナーとして、子どもの人権や部落差別問題など様々なテーマを取り上げた内容で全5回実施します。

セミナーに参加してスタンプまたはキーワードを3つ以上集めて応募した方には、集めた個数に応じて記念品を差し上げます！ぜひ、ご参加を！

Vol.1 「子どもの人権について」

終了

【講師】 嶋崎 博嗣さん
(東洋大学福祉社会デザイン学部教授)

Vol.2 「部落差別問題について」

終了

【講師】 松浦 広明さん
(公益財団法人 滋賀県人権センター)

Vol.3 「多様性について」

参加者募集

【講師】 高見 大介さん(日本文理大学社会デザイン学環准教授)
【日時】 10月21日(水) 19:00~20:00
【場所】 市役所高田庁舎、オンライン(Zoom)

詳しい情報は市
ホームページか
らご覧ください。



市ホームページ

Vol.4 「ハンセン病問題について」

予定

【講師】 大高 俊一郎さん(国立ハンセン病資料館)
【日時】 12月1日(火) 19:00~20:00
【場所】 市役所高田庁舎、オンライン(Zoom)

Vol.5 「性的少数者の人権について」

予定

【講師】 中村 健さん(As Loop アズループ)
【日時】 2月13日(土) 9:30~11:40
【場所】 豊後高田市中央公民館

第1回「身近なじんけん講座」・第1回「家庭教育講座」について 【終了：参加者58名】

7月31日(金)、会場参加型とオンライン参加型のハイブリッド形式で「身近なじんけん講座」・「家庭教育講座」を行いました。

第1回は「子どもの人権」をテーマに、嶋崎博嗣さん(東洋大学福祉社会デザイン学部教授)にお話をいただきました。

その中で、現代の子どもの成育環境として、自己決定経験と身体試し経験の両方の不足を示し、“息が上がる程度の運動”を1日60分以上行うことが推奨され、運動遊びが全面発達を促すと話されました。最後に、子どもの主体性と機会の提供が大切だと話されました。

参加者の感想(アンケートから抜粋、一部)

大人たちが都合を主張したり、優先したりする中で子どもたちの経験不足に影響しているということを学んだ。(20~30代)

マルチツールナイフを使ってる実践、かなりびっくりしました。「小さなケガ」で「大きなケガ」を防ぐ、自分もやってみたいとは思いましたが、なかなか難しいかなと思いました。(50代)

差別をなくすためには、相手のことを知ること、知ろうとすることが大切ということに気づくことができた。(40代)

今回子どもに対して、あれはダメ、これはいいよって言うので、この先子どものためになるか考えて頭からダメって言わないようにしたいと思います。(40~50代)



豊後高田市社人研(豊後高田市社会人権教育・部落差別解消推進研究会)とは？

人権問題の解決に研究・教育を通じて貢献することを目的に、教育委員会、青少年健全育成やPTA等の社会教育関係の団体の代表によって構成されています。主体的に学習し、また、人権意識の高揚が図れるよう、各種研修会の開催や社人研だよりを発行するなどして、啓発活動を行っています。

【発行】 豊後高田市社会人権教育・部落差別解消推進研究会

(事務局：教育総務課生涯学習係) TEL：0978-53-5112 FAX：0978-53-4731

※令和4年6月より、名称が『豊後高田市社会人権同和教育研究会』から『豊後高田市社会人権教育・部落差別解消推進研究会』に変わりました。